

記 事

◎第3回理事会(昭.30.8.27)出席者:菊池会長,藤井,種谷両副会長,山本,江里口,飯田,柴橋,星埜,後藤,河北,島山の各理事,中川書記長,朝倉,捧著,堀内の各主任書記。議事:1)7月中行事その他報告,2)昭和30年度名簿発行について今回は会員全部に配布できるよう努力すること,3)土木工学ハンドブック再版印税について,4)水理委員会幹事長本間仁氏は海岸工学委員会委員長の重責があるので米屋秀三氏に依嘱すること,5)中部支部常議員竹重貞蔵氏転出のため鈴木和平氏(支部幹事長)を依嘱すること,6)日本工学会第7回大会行事希望について,7)日本気象学会の気象災害に関する研究講演会等に協力するため連絡委員として,建設省河川局治水課渡辺隆二氏を依嘱すること,8)日本工業標準調査会基本部会単位記号専門委員会土木学会代表として篠原清氏を推薦すること,9)入退会その他。

◎各種委員会

1. 第3回編集委員会(昭.30.8.25)出席者:後藤副委員長,河上(代後藤)及び成岡地方委員,長尾(代久保島),竹下,岸,林,尾藤(代永田),関,菊池,針ヶ谷,大宮,猪股,今野,久保,神田の各委員,中川書記長,岡本編集部員。協議事項:1)会誌および論文集進捗状況報告,2)投稿論文および新規受付審査委員の決定,3)依頼原稿の件,4)40巻10号登載論文を次のとおり予定した。

横尾義貫他2名:ビルディングの滑函工事における応力測定,岩塚良三:水道用大口径電弧溶接鋼管の残留応力測定実験,春日屋伸昌:開水路の垂直流速曲線の形状に及ぼす諸因子間の相関性について,赤井浩一・柴田徹:沖積粘土の含水量変化にともなう強度の推移について,酒井忠明:壁厚が直線の変化をなす円筒形水槽の温度応力解法と計算図表,荒木正夫:ダム放水管に付属する導水ヒの機能について,村山朔郎他2名:標準貫入試験による地回り機構の考察,佐々木綱:等速度交通流における輸送量損失について,岡本舜三:Basic Design Criteria for Concrete Gravity and Arch Dam,米沢博:直交異方性板理論の斜桁構造への適用に関する研究,長沼賢海:筑紫の古代文化,橋本香一:起振機による橋梁の振動特性の研究。

2. 第3回学会誌編集小委員会(昭.30.8.11)後藤副委員長,針ヶ谷委員,徳平編集幹事,岡本編集部員。協議事項40号9号会誌編集について最後の決定を行つた(64ページ)。

3. 第3回学会誌抄録委員会(昭.30.8.11)左合委員長,平嶋,渡辺,中村,嶋,久野,山口の各委員,千秋幹事,徳平編集幹事,岡本編集部員。協議事項:1)40巻9号登載用として4ページを予定(割当3.5

ページ),2)繰越20編,新規5編について協議,3)投稿抄録について,4)国内雑誌の抄録について,5)その他。

4. 溶接鋼鉄道橋設計示方書委員会第1回小委員会(昭.30.8.1)出席者:田中委員長,友永,奥村,多田の各委員,西村,菊池,田島,橋本,大宮,安浪,白石,大谷の各幹事,議事:溶接橋示方書の基本方針と許容荷重について検討

5. 鋼鉄道橋設計示方書委員会(昭.30.8.2)出席者:田中委員長,青木,沼田,成瀬,福田,平井,奥村,田中(五),友永,多田の各委員,西村,菊池,田島,橋本,大宮,安浪,白石,大谷の各幹事,宮崎連絡員,中川書記長,堀内主任。議事:鋼鉄道橋設計示方書及び解説の最終案について検討。

6. 第2回海岸工学在京委員会(昭.30.8.30)出席者:本間委員長,佐藤(代吉川),山内(代畑谷),岸,太田尾,新妻,肥後,佐島,粟津,堀川,浜田,佐々木(代渡会),市栄,多谷,中島,石原の各委員,中川書記長,捧著主任。議事:1)本間委員長から本年度予算の説明,2)建設省及び運輸省の研究補助金及び昭和31年度計画について,3)用語編集について原案を各委員に配布し意見を求めること,4)海岸工学研究発表講演会を11月21,22両日(運輸省講堂を予定)に開催することとし,準備委員として,大学,建設省土研,運輸省から各1名づつこれに当る。

写真-1 会長挨拶



写真-2 講習会場における聴講者



◎昭和 30 年度夏季講習会 (昭. 30. 8. 17~20) の 4 日間, 東大法文経 25 番教室において

今回は鋼鉄道橋及び鋼道路橋の設計示方書の改訂の成案がまとまり, ちょうど時を同じくしてプレストレストコンクリート設計施工指針が制定されたので, これらを会員一般に紹介するために講習会を開いたところ非常な好評を博し, 聴講申込みが続々とふえ 600 名を突破するかに見えた。17 日早朝から聴講者がつめかけ定刻にはほとんど参集したので, 予定どおり平井理事開会を宜し, 続いて菊池会長登壇, 講習会の趣旨と講師の御労苦及び聴講者の熱意に敬意を表し挨拶のち予定のプログラムに従って講習が進められた。

第 1 日

特別講演・鋼鉄道橋設計示方書の性格について
東大名誉教授 工博 田 中 豊
鋼鉄道橋設計示方書改正の要点
国鉄施設局 工博 友 永 和 夫
特殊設計室長
鉄道橋の衝撃
国鉄・鉄道技術研究所 橋 本 香 一
鋼構造研究室技師
溶接橋梁について
東大助教授 奥 村 敏 恵

第 2 日

特別講演・鋼道路橋設計示方書改訂について
早大理工学部 工博 青 木 楠 男
鋼道路橋設計示方書改正の要点
田 原 保 二
代 川 崎 偉 志 夫
道路橋の荷重について
建設省道路局 川 崎 偉 志 夫
関道課課長補佐
鋼橋の製作について
横河橋梁製作所 田 中 五 郎
取 締

第 3 日

特別講演・プレストレストコンクリート設計施工指針について
九大名誉教授 工博 吉 田 徳 次 郎
プレストレストコンクリート設計施工指針の解説について
国鉄施設局 川 口 輝 夫
特殊設計室技師
プレストレストコンクリート設計法
極東鋼鉄コンクリート 猪 股 俊 司
振興 KK 設計部長

映 画

- 1. プレストレストコンクリート器具とその使用法 (フレンソー工法) スライド
- 2. 信楽線大戸川鉄道橋工事 映 画
- 3. 正運寺橋工事 ”
- 4. 組合と養成工 (架橋工事) 天然色映画
- 5. 原子力とは? ”

本年は近年まれに見る猛暑続きで講習会にはあまりありがたくなかったが, 当日はやや温度が下つて, 銀杏の葉陰に多少の涼味を覚えた。しかし何分に広い教室でも 600 名近くの人が集つたため会場はうだるような暑さとなつたが皆熱心に聴講された。第 3 日の映画が終つて午後 5 時過ぎ終講に当り会長の挨拶ののち, 聴講者代表延岡市役所土木課伊東二男君令嬢同伴して登壇, 満場拍手のうちに修了証を受け, 5 歳くらいの

可愛らしい令嬢には 3 日間おとなしく聴講した御褒美に人形を贈呈し, 和やかな雰囲気会を閉じ, 予期以上の成果を収めた。年々聴講者が増加し本年は申込者は 600 名を突破したが実数は 586 名となつた。

建設省 (都道府県, 市を含む)	220 名
国鉄	106 名
運輸省 (港湾, 私鉄を含む)	54 名
学 校	25 名
通 産 省 (電力関係)	15 名
農 林 省	5 名
建設業者	31 名
橋梁, 鉄工, 造船各業者	91 名
セメント	21 名
その他 (研究所, 商社)	18 名
計	586 名

第 4 日見学会 今回は A, B, C, D, E の 5 班に分れて見学することとしたが, 申込者殺到して締切後もぜひにと申出でる人があるほどであつた。しかし実際は集合場所に定刻までに参会せず係員をやきもきさせたが, それぞれ人員点呼のち見学先に向い, 担当者の懇切丁寧な案内と説明を得た上御接待を受け一同予期以上の成果を収めた。終りに関係各会社, 東京都及び交通営団の当事者に深甚の謝意を表する次第である。

A 班 (小河内ダム)	102 名
B 班 (横河橋梁及び隅田川各橋梁)	86 名
C 班 (P.S. コンクリート KK 鴨宮工場)	48 名
D 班 (オリエンタルコンクリート KK 多摩工場)	43 名
E 班 (地下鉄及び NTV テレビ塔)	47 名
計	326 名

写真-3 小河内ダム (A 班)

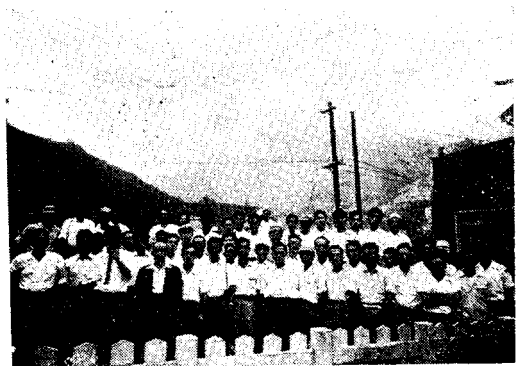
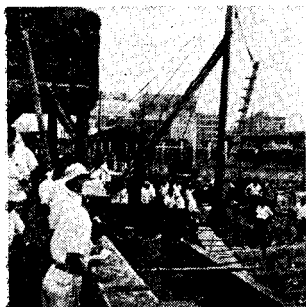


写真-4 隅田川橋梁 (B 班)



写真一5 地下鉄工事(E班)



のち京橋銀座を過ぎフロリダでダンス音楽をしばし味わい、日劇ミュージックホールを訪れ9時20分散会した。終始バスガールの流暢な説明に一同大満足であつた。

◎その他

1. 夏季講習会講師打合せ(昭.30.8.15)出席者：菊池会長、平井理事、吉田、友永、奥村、川崎、田中(五)、川口、猪股の各講師、中川書記長、捧箸、朝倉、堀内の各主任、協議事項：菊池会長挨拶ののち講習資料について詳細打合せを行った。

◎日本工学会

1. 第7回大会準備打合せ(総務関係：日本鉱業会、規格協会、電気通信学会)を昭30.8.4開催した。

2. 行事関係に関し各学協会の希望を求め9月10日までに回答方照会。

支部だより

1. 東北支部 夏季講習会(昭.30.8.4~5)参加受講者170名(土質工学会、農業土木学会、日本建築学会各東北支部と共催)

講師及び題目：土質工学概論(河上房義)、土の剪断抵抗について(武田守一)、土圧及び地盤と基礎杭の支持力(今野彦貞)、現場におけ

◎夜の東京観光

今回初の試みであつたが参加者78名、暮色せまる午後6時東大正門前でハトバス2台に分乗し、浅草観音、国際劇場で夏のおどりを見て吾妻・両国橋を渡り日本橋大増で夕食少憩

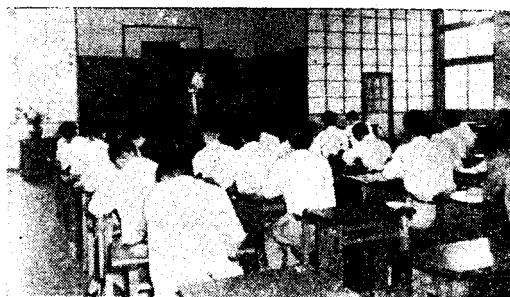
る粘土の圧縮及び沈下問題(竹内益雄)、道路の凍害(吉本 彰)、土質試験器の説明。

幹事会(昭.30.8.13)出席者：市嶋幹事長外12名、議事：1)本年度支部事業夏季講習会開催について、2)支部規定並に内規草案について、3)その他
役員会(昭.30.8.23)出席者：宮本支部長以下20名、議事：1)夏季講演会を9月9日東北大学工学部で開催について審議した。終つて東北電力KK矢崎商議員より“欧米視察より帰つて”と題する談話があつた。

2. 西部支部 第7回幹事会(昭.30.8.17)出席者：坂梨、下川、天方、上田、和田、大橋の各幹事、斎藤主事、議題：1)夏季講習会について、2)西部支部名簿作成について、3)西日本水害報告書について、4)その他、幹事交替：鈴山稻次氏(転任)辞任のため後任として大橋光太郎氏(九電KK)に依嘱した。夏季講習会(昭.30.8.21~22両日、熊本県人吉市において)聴講者130余名、講師、題目は次のとおり。

小西一郎(箱桁橋の特質と設計について)、安宅 勝(合成桁)、谷藤正三(路盤路床の土質とその調査)、望月一輔(現場コンクリートの品質管理)、市原松平(港湾工事と土圧)、諫山 廉(熊本県熊本発電所建設に伴う肥薩線々路変更工事)、内田一郎(築堤の土質調査)、藤芳義男(河川と護岸水制)、都留大治郎(河川計画財政論)、吉川秀夫(河川工作物と模型実験)、寺田一彦(有明海の模型実験及び電気的実験方法)、永井莊七郎(河川流送土砂の諸問題)。

写真一6 西部支部夏季講習会聴講者



昭和30年8月分入退会報告(昭.30.8.1~8.31)

1. 入会 21名(正4, 准16, 学生1) 2. 退会 47名(特3級2, 正10, 准なし 学生27)
3. 転格 5名(准より正5)

会員現在数(昭30.8.31現在)

名譽員	替助員	特別員	1級	2級	3級	正員	准員	学生員	合計	増加数
20	16		32	78	148	5463	7002	1260	14019	21

昭和30年9月10日印刷
昭和30年9月15日発行
土木学会誌 第40巻 第9号 定価100円
編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川一美
印刷者 東京都港区赤坂溜池5番地 大沼正吉
印刷所 東京都港区赤坂溜池5番地 株式会社技報
東京中央郵便局区内 千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20)3945番
4078番
発行所 社団法人土木学会 振替東京16828番

最古の厂史と最新の技術

HUME PIPE



日本ヒューム管株式会社

本社 川崎工場 川崎市下作延 1358 電話 溝ノ口 20. 175. 352. 353
 東京営業所 東京都中央区築地二丁目10 電話(54)3251~3
 大阪営業所 大阪市北区西扇町17 電話大阪(37)7433~6

八幡営業所 八幡市築地町二丁目14 電話八幡 462. 818
 函館営業所 函館市龜田町202 電話函館 5081. 3512
 工場 川崎・尼ヶ崎・八幡・函館

第12回
 コンクリート講習会
 テキスト

昭和30年8月

福岡市 九州大学において開催のもの
 B・5判 200頁 1部 300円(〒50円)

内容

- | | |
|-------------------------|---------|
| (1) セメントの進歩とコンクリートの改良 | (藤井 光蔵) |
| (2) セメント概論 | (小柳 勝蔵) |
| (3) セメントの試験 | (岩間 鑽一) |
| (4) 骨材およびコンクリート一般 | (水野 高明) |
| (5) 最近のコンクリート施工技術 | (吉田 彌七) |
| (6) コンクリートの品質管理 | (篠原 謹爾) |
| (7) トンネルコンクリートの機械化施工 | (住友 彰) |
| (8) マスコンクリート、とくに人工骨材と冷却 | (青木 謙三) |
| (9) 鉄筋コンクリート梁の塑性 | (坂 静雄) |
| (10) 農業土木とコンクリート | (田町 正蒼) |
| (11) 河川におけるコンクリート工業の新分野 | (秋竹 敏夫) |
| (12) コンクリート舗装の施工 | (平野 巖) |
| (13) プレキャストコンクリート | (三浦 一郎) |
| (14) プレストレストコンクリート | (水野 高明) |
| (15) コンクリートブロック建築 | (竹山謙三郎) |
| (16) コンクリートの試験 | (田中 太郎) |

日本工業規格
 セメント解説

昭和30年3月 当協会編
 A・6判 161頁 表紙極上クロス
 定価1部 150円(〒20円)

内容

- | | |
|--------|----------------|
| 日本工業規格 | セメント解説 |
| 日本工業規格 | セメントの物理試験方法解説 |
| 日本工業規格 | セメントの化学分析方法解説 |
| 日本工業規格 | セメントの水和熱測定方法解説 |

検査試験機の検査
 標準砂の検査

東京都港区赤坂台町1番地

発行所 日本セメント技術協会

振替東京196803 電話赤坂(48)8541~3